

登校拒否・不登校問題

第25回全国のつどいin京都 実行委員会ニュース No. 2



第25回登校拒否・不登校問題全国のつどい 実行委員会事務局発行 2023年4月27日

【事務局連絡先】 メール kyoto.tsudoi.2023@gmail.com
携帯 080-4483-9224 (つどい専用)
〒607-8033 京都市山科区四ノ宮芝畑町1-9 林敬子
FAX 075-594-5841
ホームページ: <https://zenkokuren.jp/tsudoi>

🌸 4月2日(日)京都で第2回実行委員会を開きました

桜前線が日本列島をかけのぼり、京都でもしんぼう強く咲いてくれている中、私たちはつどい第2回実行委員会を開きました。桜は見るものの心にさまざまな気持ち呼び覚まします。実行委員会・自己紹介の中で語られた言葉もまた、彩りと味わいをもって一人ひとりの胸に刻まれました。

立命館大学朱雀キャンパスには38人、ZOOM参加者3人、合計41人。全国からは、埼玉・東京・千葉・滋賀・兵庫・大阪・和歌山・長崎など、京都からは20人が参加しました。

今回の実行委員会は「つどい要項」の検討がおもな内容でした。事務局が提案した「要項案」をたたき台にし、参加者からたくさんの意見を聞かせてもらうことができました。5月7日の拡大事務局会議と複数回の事務局会議で練り上げて、6月4日の第3回実行委員会で要項決定をめざしたいと考えています。

🌸 実行委員長・春日井敏之さん(立命館大学大学院教授)のあいさつより

こんにちは。第1回実行委員会でつどいの実行委員長として認めていただいて任に就きました。

昨年末に生徒指導提要が改訂されました。また今年4月から「こども家庭庁」が誕生し、「こども基本法」が施行されました。いずれにおいても、私達の様々な取り組みが反映され、批准から30年経ってようやく「子どもの権利条約」が明記されました。「子どもの最善の利益の実現」ということが文科省の出す文書に書かれた意味は非常に大きいと思います。たとえば、生徒指導提要では校則を見直す取組の具体例を挙げて紹介しています。こんなことは今までなかったことです。これまで教育相談と生徒指導は二分論でやってきた経緯があります。それが今回の生徒指導提要では、「教育相談は生徒指導の一環であり、その中心的な役割を担うもの」と位置づけられています。喜ばしいことですが課題はこれからだとも思っています。どんないいこともトップダウンだけでは、学校現場ではなかなか広まらないんです。やはり現場の声と実践、ボトムアップが大事だと思います。子どもの権利条約を絵に描いた餅にしないために、どう活動していくかが問われているのです。そのためには4年ぶりの「全国のつどい」は大事な転機になるのではないかと考えています。子ども達に主体性と協働性をどう育むか、社会とつながりながらどのようにして願いを実現していくか。対話的で共感的な姿勢で大人が子どもの自己決定をどう応援するのかがポイントです。「こういうふうにしたら自己決定できるだろう」と先回りするのは、大人がまたルールを敷くことになりかねません。まず子どもが何を願い、どうしたいのかをきちんと聞き取りながら、小さな自己決定を積み重ねることを応援していきたいと思っています。

🌸 第1回・第2回実行委員会で決まったこと

- ①名称 第25回登校拒否・不登校問題全国のつどいin京都
- ②主催 登校拒否・不登校問題全国連絡会
第25回登校拒否・不登校問題全国のつどいin京都 実行委員会
- ③日時 2023年10月7日(土)~8日(日)
- ④場所 ガレリアかめおか(京都府亀岡市)
- ⑤講師 記念講演/高垣忠一郎さん
基礎講座1「家庭で」/福本早穂さん 基礎講座2「学校で」/春日井敏之さん
- ⑥文化行事 マリンバ演奏 オ・サナさん
- ⑦分科会等 今まで通り12の分科会と分散会・ひろばを行う
- ⑧飲食を伴う大交流会は行わない
- ⑨「ガレリアかめおか」には宿泊施設がないため、各自で宿舎の予約が必要となる



【第2回実行委員会で話し合われたこと】

☆第25回全国のつどいin京都の要項について・・・事務局より要項案を提案



1. 要項表紙について

*従来2ページ目に掲載していた「全国連絡会とは」を1ページ目に移動しました。

2. 要項2ページ目 2日間のスケジュールについて

□日程

| | | | | | | |
|--------------|------|-------|-----------------|----------|-------------|-------|
| | | 11:30 | 12:30 | 14:30 | 15:00 | 16:45 |
| 10月7日 (土) | | 受付 | はじめのつどい 記念講演 | 休憩 移動 | 分科会 | |
| 10月8日 (日) | 分科会 | 昼食 | 分科会 | 休憩 移動 | おわりの つどい | |
| | 基礎講座 | | | | | |
| | 9:30 | 12:00 | 13:00 | 15:00 | 15:30 | 16:00 |

- ① 宿泊なしの会場なので時間制約がある。1日目の分科会は17時撤収なので16時45分まで。また2日目は9時からしか開けられないので分科会は早くても9時半から開始になる。おわりのつどいの後も17時まで完全に撤収。
- ② 事務局の提案〈基礎講座を2日目に設定したい〉→提案理由〈これまでは宿泊前提の参加が多かったが、今回は通いの1日参加が増えることが予想される。1日目の記念講演でじっくり話を聞き、それをもって自分のことを語ったり聞いたり、同じ雰囲気で行われるのが良いか考える。2日目にも講座で学ぶ時間を作りたい〉この事務局提案に対して以下の意見が寄せられました。

「基礎講座を2日目にすることは理解できる。ただ9時半開始は遠方からを考えると厳しいのでは」「基礎講座の開始を10時にしてはどうか」「分科会も10時からとなるとまた時間が減る。2日目開始は9時半からとして、講座の運営上工夫をしては」「従来分科会は7時間。その中で深まる。今回は45分短くなる。基礎講座をどこにもっていても分科会運営のむずかしさはあるが、分科会の流れは大事にしたい」「基礎講座を2日目午後にしては」「基礎講座の午前か午後かということについて、聞いて終わりではなく、基礎講座で聞いたことをもとに、午後に深めるということもある」

3. 要項2ページ目 基礎講座2の内容について

第1回実行委員会で事務局は「基礎講座学校で」について、以前「学校で」だけではわかりにくい」との意見があったことを紹介し、意見交流を呼びかけていました。今回の実行委員会で出た意見を紹介します。

「『学校で』は教師なのか親なのか、だれが対象なのか」「従来先生が悩みを出し合い、そこに親も参加していた」「どっちが中心と決めるのは難しい。来る人拒まずの会なので、どんな意見でも受け止めて一緒に考える場にしたい」「親と教師でわいわいやるといっていきたくて思っている。そこで互いの悩みが出せたらよいのでは」「先生向けという感じをあまり出さなくてよいかと。つどいは親が中心。親の会で、学校が全然変わってきてしまった、学校がいまどうなっているのかわからないという疑問は毎回出てくる。そういう話を聞こうかなと思う人はいると思う」「親中心には少し違和感もある。苦しんでいる先生も、本当はこういうところで交流があって理解を深める場であってほしいと思っている。分科会で学校づくりなどがあるのも公教育を大事にしたいという思いがある」

* 下の文章は、現時点での要項の文言です。新しい提案や意見も出ていますので検討中です。

基礎講座2 学校で

今、学校は、子どもも先生も管理でしぼられ息苦しくなっています。子ども理解の基礎を学び、生きづらさにどう寄り添い、援助していけばよいのか、先生と親が子どもの成長・回復にどう力を合わせていけばよいのか、コロナ禍の影響や今の学校のありかたも含めて一緒に考えあいましょう



4. 要項3ページ目 「分科会」について

① 事務局より 従来、要項とは別に「分科会案内」を作成していたが、事務局としては、今年は作らない方向で考えている。この要項3ページの分科会の説明文は、より大切となるのでいねいに検討したい。

② 各分科会の文言について

小学校

「学校に行きにくくなる」から「行けなくなる」に変更、「いじめがきっかけに」から「いじめや学校の対応がきっかけになる場合もあります」に変更して事務局より提案

「学校の対応を直接責めるような言い回しは上手に避けてきたと思う」「この会は先生と親と一緒にやっていくというのが大事なところ。この会に来たられも責めない、責められない。教師も同じ」「行政の施策の遅れがいろいろあり先生の方ではどうしようもないところがある」「文言の再検討をしてほしい」などの意見が出たので再検討をすることになった。

小学校だけ「学校とのかかわり」という文言が入っているのはなぜか？という意見も出たが、小学校低学年では特に「学校とのかかわり」に悩む親が多いことから、この形でいきたい。

青(成) 年 期』をともに生きる

「『青年期・成人期』とする方がよいのでは」「ひきこもり、8050問題など避けて通れないと思うが、全国連絡会の軸足は『登校拒否・不登校』にある。学校・公教育をあくまでも大切にしていこう」

居場所A

「『行政のいわゆる教育支援センター』という言葉について、以前は『いわゆる適応指導教室』となっていたところ、『教育支援センター』という言葉が広く使われるようになってきたので『いわゆる』をはずしてもいいのではないか」⇒「いわゆる」をはずす。

*大事な意見がたくさん出ました。事務局でしっかり受け止めて、要項案をより良いものにしていきたいと思えます。

5. 要項4ページ目 について 参加費・申し込み方法

このページは申込方法や、参加費、交通アクセスなどの情報が詰まったページです。今回従来とは違うやり方を事務局で検討しています。

① 申し込み方法について

複数選択できるようにしたい。→ 今、考えているのは、インターネット・郵送・ファックスなど。

② 参加費について → 物価高騰のおり、何とか下げたいと考えている。

6. 予算 収入の部・支出の部

会計より、予算案を提示し、意見交換をしました。事務局で再検討することになりました。

☆ 今後の実行委員会の日程について

第3回 6月4日(日) 13:00~17:00

立命館大学朱雀キャンパス301

★ZOOM可

要項の決定

第4回 8月6日(日) 13:00~17:00

立命館大学朱雀キャンパス308

(ZOOM不可)

分科会世話人顔合わせ

第5回 9月10日(日) 13:00~17:00

ガレリアかめおか

(ZOOM不可)

分科会世話人顔合わせ・受付等 担当の打ち合わせ

【10月7日(土)8日(日)「つどい」本番】

第6回 12月3日(日) 13:00~17:00 まとめの実行委員会

立命館大学朱雀キャンパス308

第3回実行委員会もZOOMで
参加できることになりました!!

5/7は
拡大事務局会議を
予定しています



参加者の感想

(たくさんの感想を頂きました。一部を掲載いたします)

◎みなさん、年をかさねておられます。その中で、お話しされることも重みが自然と表れています。

「自分や人の話すことを絶対にさえぎらない。そうすることで自分の言った言葉が自分に返ってくる」という発言が心に残りました。(京都、家族・支援者)

◎いつもありがとうございます。第2回実行委員会、お疲れ様でした。自己紹介の時間を丁寧に取るのは第1回だけかと思い込んでいたら、新しい方もいらっしゃるの毎回事務のことなのですね。入会したばかりの自分でも安心して参加ができます。お店などでも常連さんだけで盛り上がっていると入りづらいますが、参加歴に関係なくいつでも誰にでも開かれていることはとても大事なことだと感じました。

会場でも話題になった、文科省から3月末に出た「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策 COCOLOプラン」がとても気になります。「Lo」がLocations of Learningの頭文字で、「学習」に焦点化されていて、これまでの文脈からすると、学習から(取り残されないというよりは)逃げられない、誰一人逃がさないという庄に陥るリスクもあるように感じます。もちろん「学習権」の保障は大切なので、内発的・自律的な意欲が育まれる土台・条件が今どうなっているのか、その土台・条件づくりを担う教師の働く環境はどうか、COCOLOプランで追い詰められる教師が増えないか等々、注視したいと思います。(京都、家族・研究者)

◎全国のつどいの骨格が決まった。不登校24万人の厳しい現実を正面にすえて、3年(4年)ぶりの全国のつどいが一步一步確実な歩みになることが、参加者の熱意になって伝わってきました。遠方の方のリモートオンライン参加は意義深いものだ。(京都、研究者・相談者)

◎おつかれさまでした。みなさんにお会いできてとてもうれしいです。「いま」を元気に生きたいと思います。(研究者)

◎高垣先生にお会いできてよかったです。安心してもらえる「おしめパンツ」になりたいなあと思います。全国のつどいでの講演も楽しみです。(京都、家族・支援者)

◎「私の生き方で何を問われているか」を考えなおす機会になりました。子どもから学ぶことは一生続いていくと思います。(兵庫、家族)

◎つどいの性格上、学校関係者、教員の方々が多く、そういう方々の活動で学校現場がよりよく変化していくことを心より願っています。

その一方で、私は親の立場での参加ですが、どんなによい先生がいて、どんなに良い配慮をしてくれる学校があったとしても、やはり行けないという子どもは必ずいますので、長時間家庭で子どもと向き合うことの多い母親支援を今後も続けていきたいと思っています。

さまざまな人が一同に集まり、子どもを中心としてより生きやすい社会となるようにとの思いで開催されるつどいの成功を心から願っています。

☆基礎講座は多くの方々が聴きたいと思うし、聴いてもらいたいと思うので、10:00スタート又は二日目午後がよいと思います。分科会はトータルな時間としてはたっぷりあるので。

☆参加者の弁当手配は連絡会の負担にならないですか？スタッフ運営世話人の分だけでいいのではないかと思います。

万が一の中止なども考えられるので(コロナ、交通機関事故、台風など)

(京都、家族・支援者)